

大会報告 新チーム初めての団体戦は初日で敗退

— 男子
— 女子

11月4日(水)に東京都高等学校バドミントン新人大会(団体)が行われ、男子が1回戦、女子が2回戦で敗退しました。男女ともに目標としていた2日目への進出は叶いませんでした。バドミントンで桜町高校を検討してくださっていた中学生の方は、今回の大会結果も含めてご検討いただければと思います。

今回、男子は前回大会から順位を240位以上落とし、屈辱を味わいましたが、次回大会でのV字回復に向けて男女ともにリスタートしました!

男女ともに今回の敗戦をしっかりと受け入れ、悔しい気持ちをチーム全体で共有し、敗戦を次につなげていこうという姿勢が見られました。例えば、普段の練習からキャプテンに任せがちになっていましたが、試合後のミーティングで「普段言われているように、ひとりひとりが主人公なんだから、高い意識を持っていこう」という発言があり、生徒たちの心の成長が見られました。

敗戦後、男子は「自発性と闘志を持ち、目的を明確にした練習を行う」、女子は「明確な目標を持ち、みんなの精神をひとつにしてお互い高め合っていく」というテーマを設定していました。

これからは、問題解決思考を働かせながら、チームに不足している点を見だし、ひとりひとりがチームへの貢献を意識しながら練習に取り組んでいくことが必要です(協調的問題解決¹)。仲の良いチームではありますが、時には意見をぶつけあったり、物事を批判的に考えたりすることが必要となってきます。生徒が主体性を発揮しながら競技力の向上を目指すとともに、これからは生き抜くために必要なコンピテンシーも同時に身に付けていきます。顧問・コーチとしては、今後より一層、適切なフィードバックをかけていき、生徒の活動を支えていきたいと思ひます。

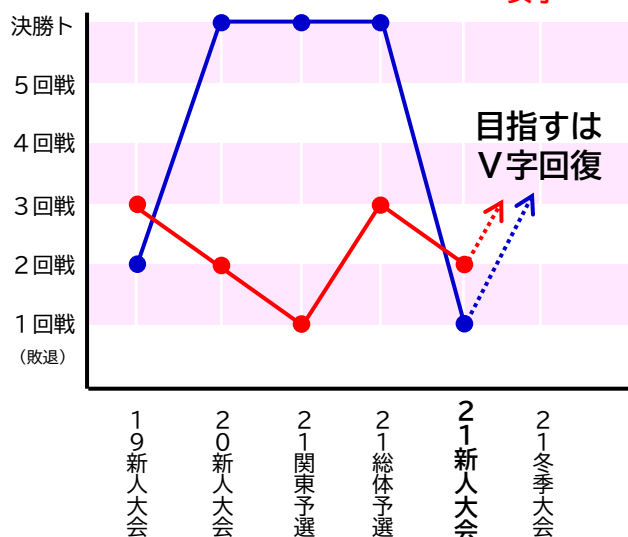


図 直近3年間の大会結果の推移(団体戦)

東京都高体連バドミントン専門部ホームページ
(<http://www.tokyo-hsbad.com/>) 掲載資料をもとに作成

生徒の活動 部活動版ルールメイキングを実施しました

新チームのスタート以降、規範意識の低下がみられたため、顧問・コーチから生徒に提案し、チームのルールを見直し、自分達で作成する取り組みをスタートさせました。NPOカタリバのプロジェクト²を参考に、9月下旬ごろからZOOMやミーティング等で検討を開始し、先月、素案が完成した所です。多種多様な部活動へのニーズが存在する中で、ひとりひとりが主人公としての意識を持つまでにはまだ時間がかかりそうですが、このような取り組みを継続し、主体性を含めたコンピテンシーにアプローチしていきます。

¹ 問題解決思考は21世紀型スキルの1つである。メンバーの1人として、建設的な方法でメンバーの知識・経験・技能を豊かにすることに貢献的に参加できる力、貢献の必要性やどのように貢献すればよいかを認識できる力として「協調的問題解決」がある。

P. グリフィン, B. マクギー, E. ケア (2016) 『21世紀型スキル 学びと評価の新たななたち』(益川弘如・望月俊男訳) 北大路書房
² NPOカタリバの「みんなのルールメイキングプロジェクト」は、学校のルールの対話的な見直しを通じて、みんなが主体的に関わる学校をつくっていく取り組みである(カタリバホームページ: <https://rulemaking.jp/>より引用)。